

問1 御成敗式目が制定された目的と、その対象について述べた文として正しいものはどれですか。 (2025年 栃木公立入試 類似)

1. 御家人同士の土地争いなどを公平に裁く基準を示すため、武士社会の慣習に基づいて定められた。
2. 源頼朝が征夷大將軍に任命された際、幕府の組織を維持するために朝廷の法律を書き直して定められた。
3. 全国の大名を統制し、城の修理や婚姻を制限することで江戸幕府の支配を固めるために定められた。
4. 元寇による恩賞への不満を抑えるため、御家人の借金を帳消しにするを目的として定められた。

問2 鎌倉時代に制定された「御成敗式目（貞永式目）」について、その制定の背景や内容として正しい説明はどれですか。 (2026年

富山公立入試 類似)

1. 執権の北条泰時が、御家人たちの間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。
2. 江戸幕府の将軍が、全国の大名を統制するために、城の修理の制限や参勤交代の義務などを定めた。
3. 聖徳太子が、官吏としての心得を説くとともに、仏教を敬い天皇の命令に従うことを求めて定めた。
4. 徳川吉宗が、裁判の基準を統一して能率的に処理するために、過去の判例などをまとめた法律として定めた。

問3 鎌倉幕府が荘園や公領ごとに設置した役職について、紀伊国阿氏河荘（あてがわのしょう）の農民たちが、耳を切り鼻をそぐといった不当な暴力をやめるよう、荘園領主に訴え出した「阿氏河荘の訴状」という文書が残されています。この文書で訴えの対象となっている、土地の管理や年貢の徴収、警察の役割を担った役職は何ですか。 (2014年 和歌山公立入試 類似)

1. 地頭
2. 守護
3. 検断使
4. 国司

問4 鎌倉幕府の中央機関のうち、財政や一般政務を担った組織と、御家人の領地争いなどの裁判事務を専門に扱った組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 徳島公立入試 類似)

1. 政所と問注所
2. 侍所と政所
3. 問注所と侍所
4. 執権と問注所

問5 江戸時代の俳人・松尾芭蕉が『奥の細道』において、北上川を望む高館（源義経の居館跡）を訪れた際、かつての奥州藤原氏の栄華をしのいで詠んだ句に関連する記述として、正しいものを選びなさい。 (2019年 滋賀公立入試 類似)

1. 源頼朝は、奥州藤原氏を滅ぼした後に守護・地頭を全国に設置し、支配を固めた。
2. 奥州藤原氏は、京都の文化を積極的に取り入れ、平等院鳳凰堂を平泉に建立した。
3. 源頼朝は、奥州藤原氏が独占していた日宋貿易の権利を奪うために平泉を攻めた。
4. 松尾芭蕉が訪れた際、平泉には奥州藤原氏によって建立された金閣が残っていた。

問6 北条時宗が指揮を執った元寇の後、鎌倉幕府の支配体制を揺るがす大きな社会問題が発生しました。その背景として最も適切な説明を、次の中から選びなさい。 (2023年 大分県公立入試 類似)

1. 防衛戦争であったため、勝利しても獲得した土地がなく、戦った御家人に十分な恩賞を与えることができなかった。
2. 元との貿易が拡大したことで国内に大量の銅銭が流入し、極端なインフレーションが発生して幕府の財政が破綻した。
3. 元寇の負担を軽減するため、北条時宗がすべての御家人の所領を没収し、幕府が直接管理する公地公民制を復活させた。
4. 防衛を指揮した北条氏の権威が失墜したことで、朝廷が幕府の倒壊を狙って承久の乱を引き起こした。

問7 鎌倉時代初期、朝廷の権威を回復しようと努めた後鳥羽上皇の命により、藤原定家らが編集した勅撰和歌集はどれですか。 (2021年 香川公立入試 類似)

(2021年 香川公立入試 類似)

1. 万葉集
2. 古今和歌集
3. 新古今和歌集
4. 山家集

問8 承久の乱が起こった背景とその後の歴史的意義についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 宮城県公立入試 類似)

1. 源氏の正統が途絶えた混乱に乗じて後鳥羽上皇が倒幕を図ったが、幕府側が勝利したことで、武士の支配が西日本にも浸透する契機となった。
2. 平氏を滅ぼした後の源頼朝の権威を恐れた朝廷が兵を挙げたが、地頭の反乱により幕府が崩壊し、再び天皇中心の政治に戻った。
3. 執権の北条氏が実権を握ることに不満を持った御家人が上皇を担ぎ出して挙兵したが、幕府は敗北し鎌倉時代は終焉を迎えた。
4. 足利氏と新田氏が朝廷の権威を利用して鎌倉幕府を倒すために起こした戦いであり、この結果、建武の新政が始まった。

## 答え合わせ・解説

|    |   |   |
|----|---|---|
| 問1 | <b>答え 1</b><br>御家人同士の土地争いなどを公平に裁く基準を示すため、武士社会の慣習に基づいて定められた。                     | 鎌倉幕府の支配地が拡大した結果、御家人たち間で土地の境界や所有権をめぐる紛争が多発しました。それらを解決するために、北条泰時は頼朝以来の先例や武士社会の慣習をまとめ、御家人たちが納得できる公正なルールを作りました。なお、当初この法律が適用されたのは幕府の支配下にある御家人らであり、朝廷の支配下にある地域では依然として律令などが使われていました。                 |
| 問2 | <b>答え 1</b><br>執権の北条泰時が、御家人たち間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。             | 鎌倉時代初期の武士の間では、土地の境界や所有権をめぐる紛争が絶えませんでした。北条泰時は、それまでの貴族の法律（律令）ではなく、武士の実情に合わせた裁判基準を成文化することで、幕府の裁判に対する信頼を高めようとしてきました。この法律は、後の室町幕府や戦国大名の分国法にも大きな影響を与えました。   |
| 問3 | <b>答え 1</b><br>地頭   | 源頼朝が朝廷から設置の許可を得て、全国の荘園や公領に配属した役職です。本来は土地の管理や年貢の取り立てを目的としていましたが、次第に領主の支配を無視して土地を横領したり、農民に対して暴力的な支配を行ったりする者が現れ、各地で紛争が起きました。紀伊国の阿氏河荘の農民による訴えは、その実態を示す代表的な史料として知られています。                           |
| 問4 | <b>答え 1</b><br>政所と問注所   | 鎌倉幕府には、役割に応じた3つの主要な中央機関がありました。政所は当初、公文所と呼ばれ、幕府の財政や一般的な政治事務を司りました。一方、武士の間で深刻化していた領地争い（所領訴訟）を公平に解決するために設置されたのが、裁判実務を行う問注所です。侍所は軍事・警察組織であるため、それぞれの役割の違いを整理しておくことが重要です。                           |
| 問5 | <b>答え 1</b><br>源頼朝は、奥州藤原氏を滅ぼした後に守護・地頭を全国に設置し、支配を固めた。                            | 源頼朝は奥州藤原氏を滅ぼす前後で、全国に守護（軍事・警察）と地頭（年貢の徴収・管理）を置く権利を朝廷から認めさせ、鎌倉幕府の基盤を盤石なものにしました。平泉の代表的な建築物は中尊寺金色堂であり、平等院（宇治）や金閣（京都）とは異なります。   |
| 問6 | <b>答え 1</b><br>防衛戦争であったため、勝利しても獲得した土地がなく、戦った御家人に十分な恩賞を与えることができなかった。             | 元寇は外国からの侵略を退けるための防衛戦争であったため、勝利しても新たに奪った土地がありませんでした。幕府は御家人に対し、彼らの軍功に見合うだけの「恩賞（土地）」を与えることができず、また多額の軍費を負担した御家人の生活は困窮しました。これが幕府に対する御家人の不満を高め、後の幕府衰退の大きな要因となりました。なお、承久の乱は元寇以前の1221年に起きた出来事です。      |
| 問7 | <b>答え 3</b><br>新古今和歌集   | 鎌倉時代初期に成立したこの和歌集は、後鳥羽上皇の強い意志によって編纂されました。藤原定家や、漂泊の歌人として知られる西行などの優れた歌人の作品が多く収められており、繊細で華麗な歌風が特徴です。奈良時代の『万葉集』、平安時代の『古今和歌集』と並び、日本の古典文学を代表する作品の一つです。   |
| 問8 | <b>答え 1</b><br>源氏の正統が途絶えた混乱に乗じて後鳥羽上皇が倒幕を図ったが、幕府側が勝利したことで、武士の支配が西日本にも浸透する契機となった。 | 3代将軍の源実朝が暗殺されて源氏の将軍が途絶えたことをきっかけに、後鳥羽上皇は政権を朝廷に取り戻そうとして承久の乱を起こしました。しかし、北条政子が「頼朝の恩義」を訴えて御家人を団結させたことで幕府軍が圧倒し、結果として朝廷に対する幕府の優位が決定的になりました。この戦いの後、多くの御家人が西日本の土地の地頭に任命されたことは、全国的な武家社会の形成に大きな影響を与えました。 |